先生、保護者の皆様へ

このワークブックは子どもたちが自分自身で作り上げるものとなっています。子どもたちだけでは、解決が難しいと判断されたところに関しては行動や答えのヒントを与えてあげてください。

また、見学などをされる場合は安全面などに十分配慮して行うようにしてください。

発　　行／国土交通省 北陸地方整備局 北陸技術事務所
〒950-1101 新潟県新潟市山田2310-5 TEL025-231-1281(代)

アドバイザー／富山市立奥田小学校　教諭　牧野和則
富山大学教育学部附属小学校　教諭　原野克憲
富山市立堀川小学校　教諭　広田積芳

年　組

なまえ

わたしたちのとやまと自然災害

平成15年3月

わたしたちのとやまと自然災害

みくりが池と立山連峰

富山防災センター
マスコットキャラクター
リッキィ

その時、街はどうなる!?

わたしたちがくらす街に、自然災害が起こったら、街はどうなるのでしょう。水びたしになったり、地震で建物がたおれたり、それまでのくらしをこわしたり、人々を困らせてしまいます。自然災害は起こってほしくないけれど、きちんと自然災害について知っておくことが大切です。

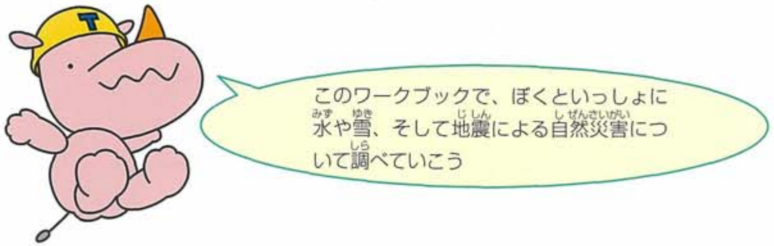
いろいろな自然災害

自然によって起こる災害【自然災害】にはさまざまなものがあります。イラストを見て、どんな自然災害かを答えてみましょう。

[　　　　] [　　　　] [　　　　] [　　　　]

[　　　　] [　　　　] [　　　　] [　　　　]

台風・雪崩・洪水・豪雨・地震・津波・火山の噴火・地すべり



自然災害ってどんなもの？

あなたは「自然災害」というと、どんなイメージを思いうかべますか？みんなで話し合って「自然災害」について思うことを絵や文で自由に書いてみましょう。

「自然災害」について思うこと

富山県で起きた自然災害

富山県の大きな自然災害年表

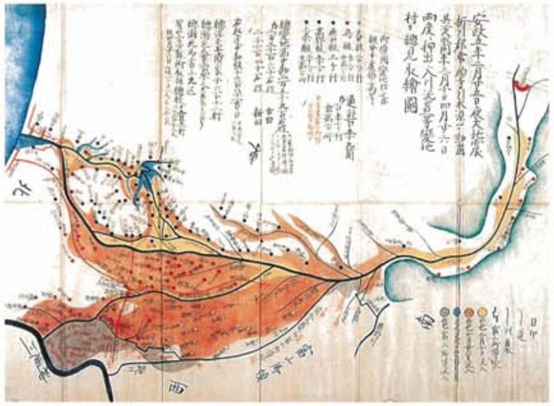
天正 8年	1580年	常願寺川の洪水で富山城が浸水、人馬の溺死多数
天正13年	1586年	天正の大地震、規模M7.8、福岡町の木舟城が崩壊
安政 5年	1858年	安政の大地震、規模M7.0~7.1、富山城の石垣、門等が破損、常願寺川上流の大とんび山、小とんび山の山崩れ、その後、二度の土石流で下流域一帯に大きな被害、死者140名、負傷者8,945名
明治24年	1891年	県下各地で大出水、特に神通川流域で被害多く、死者16名、家屋流失30戸、家屋浸水7,596戸
明治29年	1896年	黒部川、神通川、庄川で出水、死者2名、負傷者3名、家屋流失283戸、家屋浸水17,472戸 ～明治年間、主な洪水被害52回
大正 3年	1914年	県中部で豪雨被害、死者行方不明者115名、家屋浸水15,267戸
昭和 9年	1934年	県全域の大小の河川が氾濫し大きな被害、死者行方不明者31名、負傷者309名、家屋流失78戸、家屋浸水9,958戸
昭和27年	1952年	県東部で豪雨被害、黒部川、片貝川が氾濫、死者行方不明者12名、負傷者91名、住家被害109戸、家屋浸水16,619戸
昭和38年	1963年	38豪雪、富山市最大積雪深186cm、累計降雪深568cm、死者行方不明者16名、負傷者39名、住家被害187戸
昭和39年	1964年	氷見市胡桃地区で地すべり災害発生、住家被害87戸
昭和44年	1969年	県東部で豪雨被害、県東部の大小河川で洪水、死者行方不明者6名、負傷者24名、住家被害263戸、住家浸水9,602戸　神通川の出水により国道8号の富山大橋の橋脚沈下
昭和56年	1981年	56豪雪、富山市最大積雪深160cm、累計降雪深719cm、死者22名、負傷者1,167名、住家被害1,211戸
昭和58年	1983年	小矢部市内山地区で地すべり災害発生（長さ1km、幅1.2km）、国道359号が約2kmにわたって崩壊し不通
昭和59年	1984年	59豪雪、富山市最大積雪深122cm、累計降雪深692cm、死者21名、負傷者87名、住家被害4戸
平成10年	1998年	県下全域で豪雨被害～昭和44年以来の規模、住家浸水1,028戸

参考資料
「六十年のあゆみ」平成11年4月　富山県土木部
「富山県地域防災計画　震災編」　平成8年6月修正　富山県防災会議
「富山県地域防災計画　資料編」　平成15年1月修正　富山県防災会議
「北陸の雪2000」　平成12年12月　社団法人　雪センター
「常願寺川の上流をたずねて」　国土交通省北陸地方整備局立山砂防工事事務所

●安政5年の大地震

地水見聞録（当時つくられた災害報告書）にある地震のときの様子
所蔵　富山県立図書館

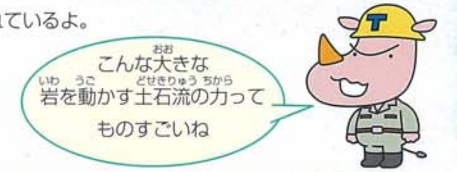
安政5年（1858年）4月9日（旧暦2月26日）の真夜中、越中（富山県）から飛騨（岐阜県）にかけた地域で大きな地震が起きました。この地震で立山の大とんび、小とんびという二つの山がくずれました。この土砂が川の流れをせき止めていましたが、しばらくして2回もくずれ、土石流となって常願寺川をいっきに流れていきました。この土石流は約1,600戸の家を押し流し、140名もの大切な命をうばいました。



安政五年常願寺川非常洪水山里変地之模様見取図／地震の後におきた水害の様子を描いた「里方図」
所蔵　滑川市立博物館

おそるべき自然パワー

常願寺川の近くには直径4～7mの大きな岩がいくつもあるよ。これは昔の洪水や土石流が運んできた岩だと考えられているよ。



大場の大転石（富山市大場）

富山県で起きた自然災害

●昭和44年の水害

常願寺川の水害時の様子（立山町三ツ塚）

豪雨 富山県下に大被害
交通網マヒ状態
堤防一一八ヵ所決壊
家屋27むね全半壊
二十四億円超す

水害を伝える当時の新聞記事
（北日本新聞　昭和44年8月12日　朝刊）

黒部川の水害時の様子（宇奈月町愛本）

昭和44年(1969年)8月10日から11日にかけて、北陸地方に停滞した梅雨前線は、常願寺川・黒部川流域の山岳地帯で500㎜をこえる豪雨となり、これにより富山県東部では、堤防がやぶれ、家や橋をこわすなどの大洪水になり、大きな被害となりました。

昭和44年の水害 被害状況

死者・行方不明者	6名
負傷者	24名
住家被害（全壊・半壊・一部破損）	263戸
床上・床下浸水	9,602戸

参考資料　富山県地域防災計画資料編

●昭和38年の豪雪

昭和38年の豪雪の様子（高岡市御旅屋通り）

二十三年ぶりの豪雪
氷見で二ﾒｰﾄﾙ三十五ｾﾝﾁ
交通機関の回復のメドつかず
一週間、雪に泣く
バス三分の二が不通
またまだ降りつづく

豪雪を伝える当時の新聞記事
（富山新聞　昭和38年1月23日　夕刊）

昭和37年（1962年）の年末から昭和38年1月にかけて、北陸地方は50年に一度といわれる大雪が降りました。富山県では特に1月中旬からひどい吹雪の日が続きました。毎年50cmぐらいの積雪だったのが、富山市で186cm、高岡市で225cmもの雪が積もりました。大雪で鉄道が止まったり、そのために物を運ぶことができなくて人々を困らせました。

昭和56年や59年も豪雪だったよ

昭和56年の豪雪の様子（富山市新川原町）

昭和59年の豪雪の様子（小杉町三ケ）

富山の豪雪 被害状況

	昭和38年	昭和56年	昭和59年
死者・行方不明者	16名	22名	21名
負傷者	39名	1,167名	87名
住家被害（全壊・半壊・一部破損）	187戸	1,211戸	4戸

参考資料　「北陸の雪2000」　平成12年12月　社団法人　雪センター

身近なところで起きた自然災害

わたしたちがくらす街で起きた自然災害について調べてみよう・聞いてみよう

前のページで見てきた自然災害や最近起きた自然災害、身近なところで起きた自然災害について調べたり、あなたのまわりで自然災害を体験した人にお話を聞いたりしてみましょう。

●調べてみたいこと・聞いてみたいこと

●調査方法

- (　　　　　　　　　　) で調べる
- (　　　　　　　　　　) に行く
- (　　　　　　　　　　) さんにお話を聞く

お話を聞く時のやくそく

質問をさせてもらう時は自分たちの学校名と学年、名前をはっきり伝えよう。お話を聞く時は静かに礼儀正しく聞こう。

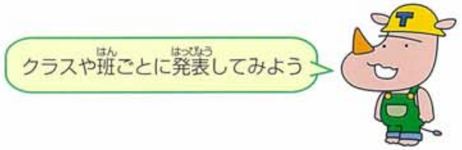
●調べたこと・お話してもらったこと

〈取材・調査メモ〉

●分かったことを整理してみよう

●まとめてみよう

●発表してみよう



わたしたちがくらす富山県の自然

富山は全国でもトップクラスの住みよい県として知られています。わたしたちはどんな自然のなかでくらしているのでしょう。

富山県にはどんな川や山があるのかな

川のなまえ

①（　　　　）川
②（　　　　）川
③（　　　　）川
④（　　　　）川
⑤（　　　　）川
⑥（　　　　）川
⑦（　　　　）川

県のなまえ

①（　　　　）県
②（　　　　）県
③（　　　　）県
④（　　　　）県

湾のなまえ

①（　　　　）湾

自然はわたしたちの宝物

富山県の美しい自然は、わたしたちのくらしにいろいろな恵みをあたえてくれる大切な宝物です。

●ともにくらすたくさんのいのち

名水が日本一多い富山県

おいしい水のある場所を選んだ「日本の名水100選」に富山県から4つの名水が選ばれています。4つというのは全国で1番の数です。

アルプスからの雪どけ水で夏でも冷たいということ、水をきれいにしてくれる豊かな森林をもっていること、川が急で激しく流れているためよごれにくいということ、いろいろな岩からミネラルがとけだしていることが富山県の水がおいしいひみつです。

「日本の名水100選」のひとつ 黒部川扇状地の湧水群

名水から作られる富山の逸品

五箇山のとうふ

富山のお酒づくり

水と自然がつくりだす水力発電

川が急で、豊富な雪どけ水に恵まれた富山県は現在、日本一の水力発電量をほこっています。富山県の水力発電は明治32年（1899年）に全国3番目に始まりました。この富山県の自然の地形と豊かな水が多くの人々の生活の助けになっています。

富山県で最初に水力発電を始めた大久保発電所（神通川・大沢野町）

魚を育む川と海

神通川や庄川をはじめとする富山県の川では、昔からアユやマス、サケなどの川魚の漁がさかんでした。最近では富山県の味「ますずし」やアユやイワナを使った特産品も産業のひとつになっています。富山湾は日本三大深湾の一つで、シラエビやブリ、ホタルイカなどがとれます。

庄川での流し網漁

寒ブリ漁

雪をかしこく利用

富山県にたくさん降る雪を人々はかしこく利用しています。スキー場をはじめ、雪のイベントや冬が見どころの観光地がたくさんあります。また最近ではこの雪を新しいエネルギーとして利用する「氷室」や「雪室」に注目が集まっています。

雪室

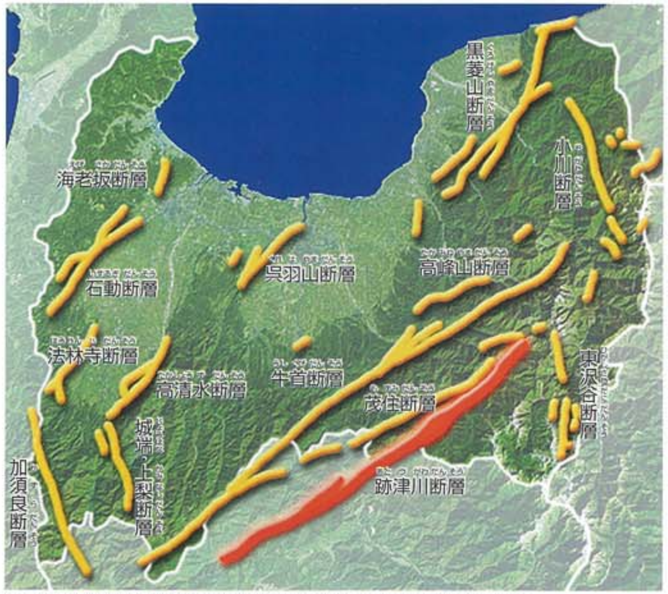
火山がつくった温泉

立山の近くには宇奈月温泉などの有名な温泉地があります。立山はあきらかな噴火の記録はありませんが、活火山なのでその地熱のおかげで周辺にいい温泉がわくのです。

宇奈月温泉

地震はどうして起きるの？

●富山県にはこんなに活断層があるよ



参考資料　地震調査研究推進本部（文部科学省に設置）HP　http://www.jishin.go.jp/main

地震が起きる原因のひとつに「活断層」があります。地層や地形のずれを「断層」といい、断層のうち、地震を起こしたことがあって、これからも動きそうなものを「活断層」と呼び、これが動くことで地震が起こります。

日本には約2,000の活断層があるそうです。富山には跡津川断層という活断層があり、これは立山カルデラから岐阜県のほうにまっすぐにのびています。

断層を見に行こう

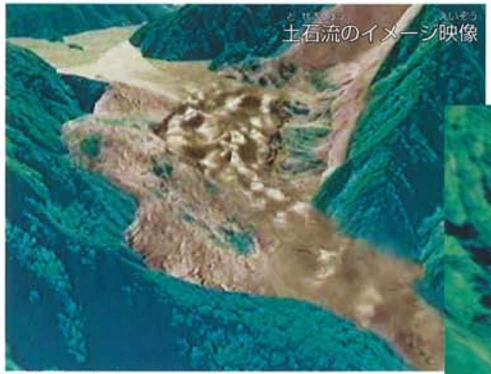
断層を自分の目で見ることができるよ。立山カルデラ砂防博物館（立山町）では、跡津川断層真川大露頭を見ることのできる見学コースがあるよ。

※露頭　地層や岩石が地表に露出しているところ

跡津川断層の露頭

土石流はどうして起きるの？

●土石流ってどんなもの？



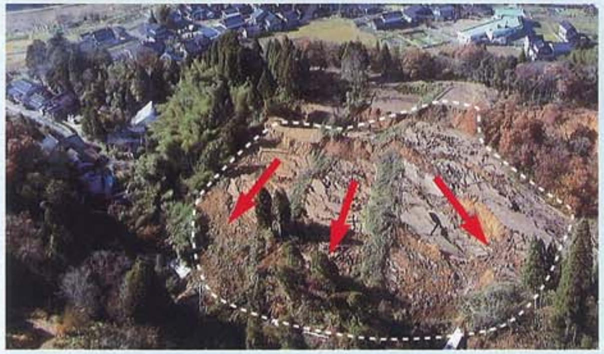
大量の川の水が土砂と一緒に流れ出す。

（提供：国土交通省 北陸地方整備局 立山砂防工事事務所）

大きな岩を先頭に川の両側を削りながら流れくだる。

土石流は大雨や雪どけ水などの大量の水が山や谷にある石や土砂と混ざっていっきに斜面を流れ落ちていきます。このとき、大きな岩が先頭になって流れてくるのが土石流のとくちょうです。ものすごい破壊力をもっています。土石流が起こりやすいのは、くずれやすい谷や急な川があるところといわれています。

土石流と地すべりのちがい



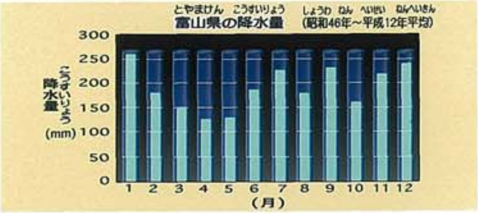
地すべりはねん土でできたすべりやすい地層に雨水や雪解け水が入りこんだせいで、その上の地面がズルズルと動きだして被害をだします。地層や岩石の性質が弱い場所で起こりやすい自然災害です。

平成14年11月に起こった地すべりの様子（氷見市谷屋）

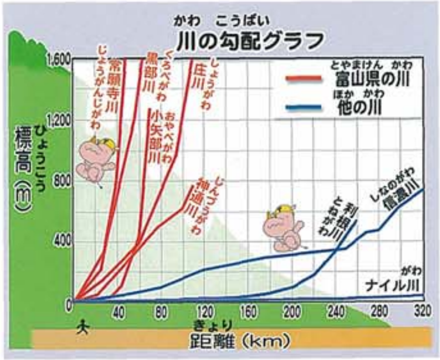
自然災害はなぜ起こる？

水害はどうして起きるの？

●富山県の降水量はどれぐらいかな？

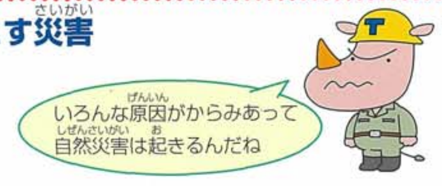


●富山県の川は「ぜっきょうすべり台」



左のグラフをみるとわかるように富山県の川はとても急流です。そのわけは富山県の地形は山と海がとても近くて、3,000mの立山から水深1,000mの海底までたった数十kmしかないからです。他の河川と比べてみても富山県を流れる川は急だということがわかります。

●大雨や雪解けの水と急な地形が起こす災害

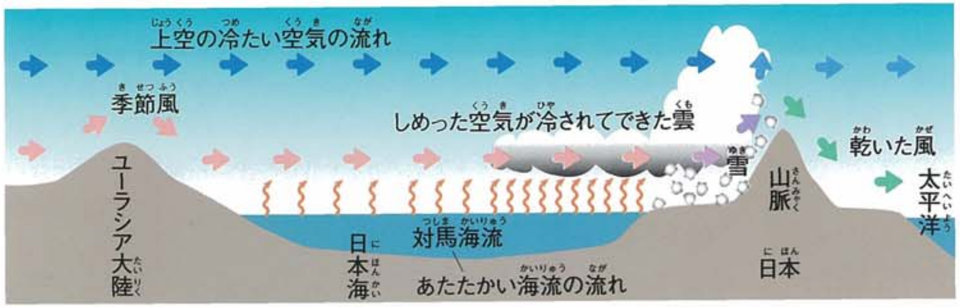


昭和44年8月の大雨による被害（入善町境）

大雨や雪解け水は、川の水量をいつもより増やして、堤防にぶつかる力が強くなります。富山県には流れの急な川が多く、大雨が降った時には、たくさんの川の水が、たくさんの土砂を流しながら、流れ下ります。

雪はどうして降るの？

●雪が降るしくみ

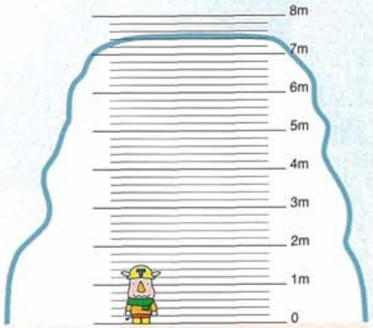


冬は大陸からの強い季節風が吹き、これが日本海の影響を受けて、しめり気をふくんだ雲をたくさん発生させます。それが立山などの高い山脈をこえる時に冷されて、たくさんの雪を降らせるのです。雪雲は山をこえる前に水分を落とすので、山をこえると乾いた風に変わります。そのため太平洋側に雪を降らせることはあまりありません。

参考資料 「明るい雪国へ 雪とわたしたちのくらし」平成14年11月 新潟県総合政策部地域政策課

雪と背くらべ

立山に今まで最高に降りつもった雪の高さとあなたの身長をくらべてみよう！



立山（真川）の最大積雪深750cm
(昭和20年)

あなたの身長（　　　　）cm

立山の雪÷あなたの身長＝（　　　）

あなた（　　）人分の雪の高さ

立山・雪の大谷散策

参考資料 「北陸の雪2000」 平成12年12月 社団法人雪センター

みんなで守る・みんなで防ぐ自然災害

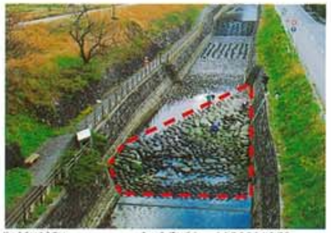
自然災害とたたかった人たち

富山県には昔から自然災害による被害を小さくしようと努力をした人たちがいました。

佐々堤を築いた人　佐々 成政【1536～1588】

佐々 成政

佐々成政が富山城主になるまでの常願寺川のあたりは洪水の被害が絶えず、人々の頭を悩ませていました。そこで、佐々成政は堤防を築きました。それが佐々堤です。天正8年（1580年）に築かれた越中初の川筋堤防の霞堤です。川の水は佐々堤にぶつかることで、河川の中央へと押し戻され、水害が減ったそうです。常西用水を作る時に佐々堤の一部もそのまま使われて現在もその姿を見ることができます。戦国時代に作られたとは思えないほど立派なものです。



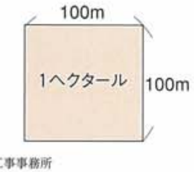
常西用水にみられる佐々堤跡（大山町上滝）

写真提供　富山市郷土博物館（「佐々陸奥守成政之像」）
参考資料　「河川の歴史読本　常願寺川」平成13年3月 国土交通省北陸地方整備局富山工事事務所

殿様林をつくった人　前田 利與【1737～1794】

佐々堤の近くの常西用水路沿いには、たくさんの古い松の木が連なっています。これは江戸時代、富山藩主である前田利與というお殿様が洪水を起こしにくくするために作らせた水防林で「殿様林」とよばれています。川岸に木を植えれば、水があふれても土手はあまりけずられませんし、石や泥が林にひっかかるので、田畑の被害は少なくなります。殿様林は、はじめは約6ヘクタールもあったそうですが200年以上たった現在でも100本ほど残っているそうです。

殿様林（大山町馬瀬口殿様林）



参考資料　「河川の歴史読本　常願寺川」　平成13年3月 国土交通省北陸地方整備局富山工事事務所

河川改修が進むように分県運動をした人　米沢 紋三郎【1857～1929】

米沢 紋三郎

明治9年（1876年）、富山県（当時は新川県）は石川県と併合されました。しかし、今でいう富山県側と石川県側では地形が異なるため、長い間、水害に悩まされ、河川の改修を早く進めたいもともとの富山県の人と道路の建設に関心がある石川県の人との間で意見のくい違いが起きました。そこで富山県を分離させようと米沢紋三郎らが中心となって分県運動を興しました。米沢紋三郎は、政府に「分県之建白」を提出して、政府に分離したいという願いを伝えました。そのおかげもあって、明治16年（1883年）、富山県は石川県から分離しました。富山県が分離したおかげで、富山県は河川の改修に力を入れられるようになりました。

※河川改修　洪水が河川からあふれて被害を起こすことなどを防ぐために、河川をより安全にするための工事を行うこと。

写真提供　入善町教育委員会
参考資料　「越中の群像　富山県百年の軌跡」昭和59年3月 富山新聞社編　桂書房
「図説　日本の歴史16　図説富山県の歴史」平成5年10月　河出書房新社

常願寺川の改修工事を指導した人　ヨハネス・デ・レーケ【1842～1913】

ヨハネス・デ・レーケ

明治6年（1873年）に明治政府の招きで、日本各地で治水や砂防の指導を行っていたオランダ人土木技師のデ・レーケは、明治24年（1891年）に富山県を訪れ、常願寺川の大工事を計画しました。それまでの常願寺川は、河口近くで大きくカーブし、白岩川と合流していたため土砂がたまりやすく、たびたび洪水を起こしていました。デ・レーケは、このカーブをまっすぐにし、川幅も広げ、河口を白岩川と分けるという計画を立てました。また、常願寺川の堤防には、農業用水の取入れ口（取水口）が用水ごとにつけられていましたが、これが堤防をくずれやすくしているため、取水口を1カ所にまとめ、そこから各用水に水を流す「合口」の計画を立てました。

デ・レーケの流路計画

写真提供　立山カルデラ砂防博物館
参考資料　「河川の歴史読本　常願寺川」　平成13年3月 国土交通省北陸地方整備局富山工事事務所

他にも調べてみよう

自然災害による被害を小さくしようと努力した人が他にもいなかったか探してみよう。

みんなで守る・みんなで防ぐ自然災害

自然災害を防ぐために

わたしたちのくらしは自然災害からどのように守られているのでしょう。山や川へでかけてみると、自然災害が起こらないようにするための施設や工夫がたくさんあります。どんな工夫があるのか、ひとつひとつ学んでいきましょう。

水害を防ぐ

堤防

堤防（常願寺川）

川から水があふれて田畑や住宅地に水が流れ込むのを防ぐために川の両岸につくられます。

護岸

護岸（神通川）

堤防が川の水にけずりとられないように、表面を石やコンクリートなどでおおいます。

水門

いたち川水門（神通川）

本川（大きな川）と支川（小さな川）が合流する地点にあって、本川の水量が増えた時に、支川に水が逆流するのを防ぎ、支川を守ります。

ダム

宇奈月ダム（黒部川）

洪水のときに下流に流れる水の量を調整します。

土砂災害を防ぐ

砂防えん堤

白岩砂防えん堤（常願寺川）

本宮砂防えん堤（常願寺川）

土砂が流れていくのを防ぎます。

雪害を防ぐ

スノーシェッド

スノーシェッド

雪崩が起きやすい場所で道に屋根をつけて、雪崩が起きても安全に通れるようにします。

雪崩予防柵

雪崩予防柵

雪がすべるのを止めて雪崩が起こるのを予防するさくです。

除雪機械

除雪機械

車が安全に通れるように道路の雪を取り除きます。

消雪パイプ

消雪パイプ

道路に水を流して、道路の雪をとかします。

地震災害を防ぐ

耐震建築

富山市総合体育館

地震に強い街づくりをやっています。地震に強い建物が研究・開発されています。

強い味方のみはり番

遠い場所からいろいろな場所の雨の量や、川の水位や道路の積雪をいつも見はっています。

- 気象観測装置
- 水位観測装置
- 積雪観測装置
- 地震観測装置

レーダ雨量計（宝達山）

道路情報表示板

防災ネット富山

みんなで守る・みんなで防ぐ自然災害

自然災害が起こったときに活躍する人たち

自然災害が起きないようにいろんな工夫がされていましたが、それでも人の力をこえた自然災害が起きてしまう場合もあります。そんな時、被害を最小限にくいとめるために働く人たちがいます。どんな人が協力しあってどのような活動をしているのかみてみましょう。

連携プレーで自然災害に立ちむかう

災害対策本部

災害対策本部

自然災害が起こったとき、国や県、市町村は「災害対策本部」を設置します。被害の状況などさまざまな情報を集め、発表したり他の機関に応援の要請をしたりします。また、被害にあった地域の住民を安全な場所に避難させます。

消防隊・消防団（水防団）

堤防に土嚢を積む消防団

災害現場で被害にあった人たちを救助したり、けがや具合が悪くなった人を病院へ運んだりします。火事が起こったときは消火活動をします。また消防団・水防団は消防本部と協力し、被害がひろがるのを防ぐ活動をします。

警察

災害現場で救助を行う警察官

災害現場に人や車が入らないよう交通規制をします。また、災害現場で被害にあった人たちを救助したり、被害にあった地域をパトロールし、住民の安全を守ります。

気象台

気象状況を伝える衛星写真

資料：富山地方気象台

気象に関するデータを管理して、災害が起こりそうな時、注意報、警報や気象情報を発表し、人々に注意をよびかけます。

日本赤十字社

赤十字の救護班

病院と協力し「救護班」をつくり、災害現場でけが人や具合が悪くなった人の治療をします。

水道、電気、ガス、電話

電気の復旧工事

わたしたちの生活になくてはならない水道・電気・ガス・電話などが、災害により壊れたり、使えなくなったりしたとき、すぐに使えるように直す作業をします。

富山防災センターに行ってみよう

防災ナビルーム

富山防災センターは、自然災害が起こった時に人の命やくらしを守る防災活動を応援する役目をもっています。地震・水害・雪害が起きた時、復旧作業をする機械などの基地になります。富山防災センターにある防災ナビルームでは、自然災害のことをいろいろ学べる展示をしています。

災害対策車を見てみよう

衛星通信車

災害現場の映像や情報を人工衛星を中継してスピーディに連絡するために使う車です。

国土交通省など

危険箇所で作業を行う無人建設機械

自然災害の被害の情報を集め、道路や川などの災害現場でさまざまな機械を使ったりして被害がひろがるのをおさえる支援をします。

自衛隊

仮設の橋をかけている自衛隊

都道府県知事の要請を受けて災害現場に派遣され、被害が拡がるのを防いだり、避難した人たちを助けたりするさまざまな救援活動をします。

たくさんの人たちが力を合わせて自然災害に立ち向かっているんだね

テレビ・ラジオ・新聞

情報を伝えるテレビ局

被害の状況や危険性など災害対策本部が発表する情報を、多くの人たちに正確に伝えます。

ボランティア

ボランティア受付会場に集まる市民の人たち

災害がおこったときに、地域の人たちが協力して被害がひろがるのを防いだり、被害にあった人たちを助けたり、避難所の運営や炊き出しなどをします。

いつでもパトロールしているよ

河川・道路パトロール

河川パトロール

河川や道路を日頃から見てまわって、異常がないかどうか点検・パトロールしています。

もっと調べてみよう、聞いてみよう

これまで富山の自然災害についてみんなでいっしょに調べてきましたが、これからは自分自身でもっと知りたいことを調べてみましょう。

ビデオ、ワークブックを通して

おどろいたこと

よくわからなかったこと

もっとよく知りたいこと

わたしは、

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

についてもっと調べます。

どうやって調べる？

本で調べる

◆大きな図書館に行ってみよう

富山県立図書館
〒930-0115　富山市茶屋町206-3　076-436-6812

富山市立図書館中央館
〒930-0085　富山市丸の内1-4-50　076-432-7272

訪ねてみる

国土交通省 北陸地方整備局

北陸技術事務所 富山出張所
富山防災センター（防災ナビルーム）
〒939-3544　富山市水橋入江334-4　076-478-5511

富山河川国道事務所
〒930-8537　富山市石金3-2-37　076-424-1701

黒部河川事務所
〒938-0042　黒部市天神新173　0765-52-1122

立山砂防事務所
〒930-1405　中新川郡立山町芦峅寺字ブナ坂61　076-482-1111

利賀ダム工事事務所
〒930-1363　砺波市太郎丸1-5-10　0763-33-4701

富山県庁
〒930-8501　富山市新総曲輪1-7　076-431-4111

富山県［立山博物館］
〒930-1406　中新川郡立山町芦峅寺93-1　076-481-1216

富山県立山センター　立山自然保護センター
〒930-1414　中新川郡立山町芦峅寺（室堂平）　076-465-5213

富山市科学文化センター
〒939-8084　富山市西中野町1-8-31　076-491-2123

黒部市吉田科学館
〒938-0005　黒部市吉田574-1　0765-57-0610

庄川町水資料館
〒932-0305　東砺波郡庄川町金屋1100　0763-82-4316

黒部川電気記念館
〒938-0282　下新川郡宇奈月町483-1　0765-62-1334

立山カルデラ砂防博物館
〒930-1405　中新川郡立山町芦峅寺字ブナ坂　076-481-1160

インターネットで調べる

◆防災について調べる

内閣府 防災情報のページ
http://www.bousai.go.jp/

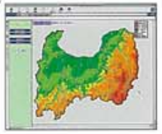
ほくりく防災のホームページ
http://www.hokuriku-bousai.jp

人と防災未来センター　キッズミュージアム
http://www.dri.ne.jp/html/kids/index.html

◆川の水量や雨量を調べる

防災情報（国土交通省）
http://www.mlit.go.jp/bosai/disaster/bosai.htm

富山県ホームページ　富山県雨量・水位情報
http://www.ameinfo-toyama.jp/



◆雪について調べる

雪センター
（社団法人 雪センター）
http://www.yukicenter.or.jp/

◆富山について調べる

富山県
http://www.pref.toyama.jp/

北日本新聞
http://www.kitanippon.co.jp/

富山新聞
http://www.toyama.hokkoku.co.jp/

身近な人に聞いてみる

先生、地域の人、親せきの人などいろんな人に質問したりしてみよう。